

人文学基礎（人文学と対話）第2回

質問を通じて自他の考えを理解する

主担当教員：高橋 綾（人文学林 講師）

副担当教員：火曜 菅原裕輝先生（人文学林） 木曜 西村高宏先生（人文学専攻）

TF：火曜 陳凱歆さん（言文） 水曜 村井勇輝さん（外国学）

TA：火曜 チョスンヨンさん（日本学） 水曜 春川千潮さん（言語文化学）

木曜 阿部悠太さん（人文学）・泊慎太郎さん（日本学）

授業の目的と内容

【目的】

対話と探究のスキルとしての「質問」について学び、実践をするとともに、他の受講者との交流を深める

【内容】

1. はじめのミニワーク “発声練習” (15分)
2. 今日のワークの説明、模範演技 (30分)
3. 対話型ワーク②
相手の研究テーマについて質問してみよう (30分)
4. ワークで話されたことを「他己紹介」でシェア (10分)
5. ふりかえりシートの提出について (5分)

はじめのミニワーク ”発声練習”

(今後も授業の最初はこれから始まるのでやり方を覚えてください)

- (1) 誰かが簡単・簡潔に答えられる質問（できればその人らしさがわかるものがよい）をします。
- (2) 名前を呼ばれた人は、「私の名前は〇〇です、質問への答えは～～です」と最初の質問への答えをなるべく短く、簡潔に教えてください。
この時点で、その日の授業への参加に支障がある場合は申し出てください。
- (3) 自分の番が終わったら、次の人を指名します。この時、自分の番が回ってきていない人は、指名する人がわかりやすいように、リアクションの挙手のボタンを押しておいてください。
- (4) 全員が話し終えるまで、これを繰り返します。

今日の質問は、次の人を指名するための「マイ・ジェスチャー」（手や体の一部を動かす動作）はどんなものかいいですか？ です。この質問に答えジェスチャーをし、次にそのジェスチャーをしながら次の人を指名してください。今後も最初の”発声練習”では、このジェスチャーを使うので、使いやすいものにして下さい。



対話型ワーク②

相手の研究テーマについて
質問をしてみよう

相手の研究テーマについて質問をしてみよう（1）

- ◆ 対話では、自由に話すこと（フリートーク）よりも、他人の話を丁寧に聴くことが大事です。今日のワークでは、役割を固定した質問ゲームで自分の聴く力・質問力（積極的傾聴）を試してみましょう。
- ◆ このワークでは2人1組になり、聴き役と答える役に分かれ、聴き役は相手への理解を深めるためにさまざまな角度から質問をします。
- ◆ 今回は対話相手の研究テーマについて質問をしてください。
- ◆ ただし、その研究テーマについて一般的・学術的な情報を得るためだけでなく、対話相手の理解に重点を置き、
 - ・その人はなぜそのことを研究しようと思ったのか？
 - ・その人はいつごろからそのことに興味を持ったのか？きっかけはどんなことか？〇〇は好きなのか？
 - ・その根本にあるその人の問題関心や考えたいことは何か？という、相手や研究テーマの背景にある相手の関心や考えを（共感的に）理解するために質問をしてください。

【参考】質問のしかたのヒント：「哲学者の道具箱」

- ◆質問をするときには、相手についての事実や情報を引き出す質問（when, where, what, who, how）だけでなく、相手の「考え」（理由、判断、価値、前提）を理解するための質問（例 why）をしてみよう
- ◆質問や探究のヒントとしての「哲学者の道具箱 Good Thinker's Toolkit」（ハワイのこどもたちとの対話で使用）

・“R” その理由は何ですか？／どうして、なぜそう思うの？

（理由：what a reason for?／why）

・“W” それはどういう意味？（意味：what do you mean by?）

・“E” 例えばどういうこと？（例：example）

・“C” でも～という場合はどうなる？（反例：counter example）

・“T” 本当にそうなの？証拠はあるの？（事実：truth）

・“I” もしそうなら～ということになる

（推理、推論 Can I/we infer~?）

・“A” ～を当たり前だと考えてよいのだろうか？

（前提 Can I/we assume~?）



写真：ハワイのワイキキ小学校の教室にてこどもたちにGood Thinker's Toolkitの頭文字を見せ、質問を促す先生

相手の研究テーマについて質問をしてみよう（2）

【ワークの進め方】 2人1組30分間のワーク、最初の15分：ターン①／後半の15分：ターン②

- (1) 2人1組でZoomのブレイクアウトルームに分かれます
- (2) 対話相手にあいさつをして、聴き役と答える役を決めてください
- (3) そこから15分間（一巡目）は、聴き役は質問だけ、答える役は相手の質問に答えるだけしかできません。
質問→答え→質問2→答え2→…というかたちで「問答」を行ってください
※聴き役は質問がとぎれても、制限時間内はがんばって質問を考え、問答を続けてください
- (4) 15分経過したら、こちらより各ルームに「15分経過しました。役を交代して二巡目のワークをおこなってください。」というメッセージを出します。そのメッセージが出たら、聴き役と答える役を交代して「問答」をしてください

※ワークが終わったあとで、対話の内容をもとに、対話相手の紹介（他己紹介）を口頭もしくは文章でしてもらいます。ただし、このワークでは、メモを取るのは最小限にして、できるだけ対話に集中してください。

専門用語や固有名詞が出てきた場合には、チャットに用語や固有名詞を書いて共有することを推奨します。

答える側の方は、あとで他のクラスメンバーにその内容を紹介されるので、多くの人に知られるのが嫌な内容については「答えられません・パス」と返答し、答えないでください。

※ティーチングスタッフがグループを巡回しますが、評価のためではなく、ワークがうまくいくためのサポートのために入るので、あまり気にしないでください

相手の研究テーマについて質問をしてみよう (3)

このワークで気をつけること：質問と答えのやりとりを足並み揃えて続ける「協力型」のゲームです！

【聴き役の注意点】

- 🙋 自分の意見は言わない、質問しかしてはいけません（あいづちなどは必要ならしてもよい）
- 🙋 質問の前提を説明することや、質問に自分の意見を含めることはなるべくせず、相手にシンプルな質問をするよう心がけましょう
- 🙋 1回にできる質問は一つ、なるべくシンプルで、相手が何を答えたらいいのかわかる質問にしましょう
- 🙋 相手の「考え」を知るために、哲学者の道具箱の質問も（友好的に）使ってみましょう

【答える役の注意点】

- 🙋 相手の質問が何を聴いているかわからない場合は、「もう一度質問をしてください」と伝えてください
- 🙋 答えたくなかったり、答えがわからない質問については、「その質問には答えられません、わかりません」と伝えてください（自分のIntellectual Safetyを自分で守ろう！）
- 🙋 答える役が逆質問することや、質問されたこと以上のことを答えてはいけません！

【両方への注意点】

- 🙋 専門用語はなるべく使わず、他の専門の人にもわかる言葉に置き換えてください
- 🙋 沈黙はあっても大丈夫！考えているあいだ黙っているのはOK。ただし、「ちょっと考えるから黙ります」などと伝えてからにしてください。
- 🙋 自分のペースと相手のペースを合わせましょう。ペースが遅いほうに合わせるのが基本
- 🙋 相手の話すペースが早い時、わからなくなった時は、どちらの役でも「まって、わからない」と言おう
- 🙋 2人で協力して、たがいについての理解が深まるようにしてください



↑二人三脚、二人で足並みをそろえる協力型のゲーム

【参考】対話 dialogueと議論 discussionの違い

対話と議論は、まったく異なるルール（考え方）や目的のために行われる、種類の異なるゲームであると考えたほうがよいです。対話のなかでは、みなさんが慣れている（と思われる）議論とはちがうやり方で探究することに挑戦してみましょう

	議論 Discussion/ Argumentation	対話 Dialogue
参加者	個的・理性的存在	身体、感情をともなう関係的存在
参加のモード	客観的、分析的、論争的	共感—共同的、受容—肯定的
目的	真理の探究、問題解決、合意	相互理解、意味の共有、自己変容
志向	イシュー志向	パーソン志向
知のタイプ	対象知、分離	自己知、包摂
楽しみかた	競技型スポーツ (勝負が問題でスタープレイヤーが有効)	協力型スポーツ／ハイキング・集団登山 (全員が協力し、ともに体験するプロセスが重要)

【参考】アサーティブトレーニング※における3つのタイプの自己表現

◆ 攻撃的（アグレッシブ）な自己表現

自分は大切にするが、相手を大切にしない自己表現。自分の主張はできているが、相手の気持ちや考えを尊重できていなかったり、相手に自分の考えを押し付けることになったりする

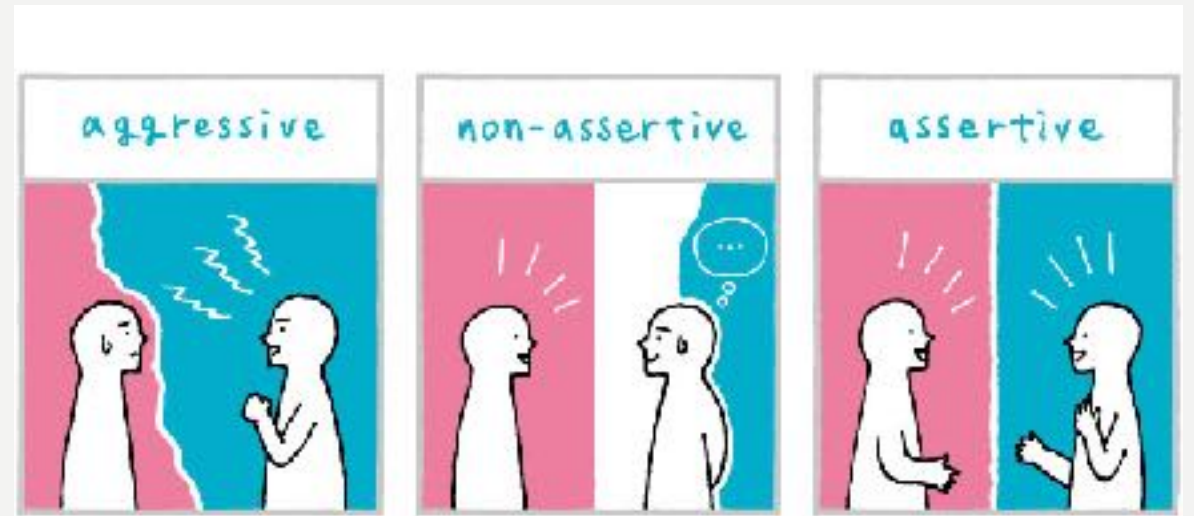
◆ 非主張的（ノンアサーティブ）な自己表現

相手は大切にできているが、自分を大切にしない自己表現。相手の言うことは聞くが、自分の気持ちや考えをきちんと表現しない、し損なうため、自分を損なうことになる場合もある

◆ アサーティブな自己表現

自分も相手も大切にしたい自己表現。相手も尊重しつつ、自分の考えや信念を率直に、その場にあったやり方で表現する

→自分のコミュニケーションの傾向を知り、自分の良いところもいかしつつ、自分にとっても相手にとっても得るところのある、win-winのコミュニケーションができるように努力してみよう！



イラスト：楠木雪野

※アサーティブトレーニング：アメリカで始まった、コミュニケーショントレーニング、人権教育の手法。詳しくは、日本看護協会HPの高橋の連載『コロナの時代の対話とケア』第3回（<https://jnapcdc.com/LA/takahashi03/>）などを参照のこと。

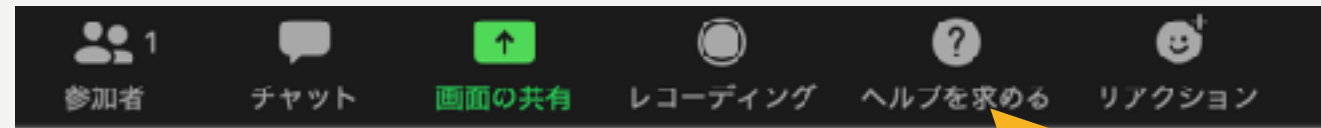
Zoomの使い方について

ブレイクアウトルームを使う場合の注意点

授業担当者のほうで、2人1組を作りブレイクアウトルームを割り当てますので、そのルームに参加してください。ブレイクアウトルームに分かれた後の注意点は・・・

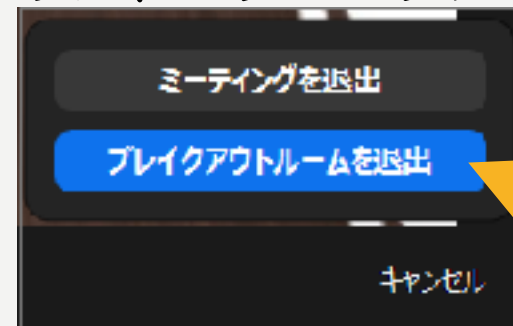
(1) 何かあったらヘルプボタン！

→ブレイクアウトルームからチャットは届きませんので、対話相手のネット接続が悪くルームを退出した、など、ブレイクアウトルーム内で何かありましたら、画面下にある「ヘルプを求め」を押してください。



(2) 「ミーティング」から退出しないでね

→グループワークの時間が終わると、ブレイクアウトルームを閉じてメインルームに戻ってください。ブレイクアウトルームから出るときには、「ミーティングから退出」と「ブレイクアウトルームから退出」の2つの選択を求められますが、「ブレイクアウトルームから退出」を選んでください。





ふりかえりシートについて

ふりかえりシートの記入・提出について

◆ 今回も、今日の対話を振り返って、ふりかえりシートを記入し、提出してください。

◆ 今回は、**(3)の項目に、ワークの対話相手の他己紹介の文章を書いてください** (のちほど、受講者全員に全員の他己紹介を文書にしてシェアをします)

【記入例】

相手のニックネーム：〇〇さん

その人の紹介：5行くらいの短めの文章でよい

◆ ふりかえりシートの【4】【5】の項目を記入された方は、基本的に「成績表」のフィードバックが個人メッセージで回答をしますので、確認ください (成績表の点数は特に意味はありません)

◆ 第3回も**事前学習動画を視聴し、説明を理解してから、準備課題をし、参加してください!**

人文学部 (人文学と創造) ふりかえりシート 第 回 (月 日) 分

クラス：春学期 曜日 名前 (授業でのニックネーム)

【1】(必須) 今日の授業 (視聴点) でのあなたの観感・状態を振り返って正面に記入してください

		1 とても 肯定的	2 少し 肯定的	3 どちら でもない	4 少し 否定的	5 とても 否定的
ワーク・フィードバック	1.自分とは異なる意見や考えでも、いざなり批評や否定せず、聴き、理解しようとする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2.自分の関心ことや相手にとってネガティブなこと、相手と自分の意見や感情の差でも、それらを尊重かつ適切な言い方で伝える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3.様々な関心、能力や特性の人が発言しやすい環境をつくるために配慮する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
質問・アクティブラーニング	4.自分とは異なる意見や考えを自分に対して、相手の考えや自分と他人の違いを知るためにさまざまな角度から質問をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5.相手の感じ方、考え方について、相手の立場に立って、共感的に理解する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
セルフアウェアネス	6.対話中の対話のなかで、自分が感じ、考えていることや無意識に当たり前の思っていたこと (例:「自分は聞き手だ」)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7.同僚的な関係や信頼な関係について、自分で考えを切り口を戻す、深掘りするための「問い」を立てる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8.相手の考えたいことや「問い」を深掘りし、それと向き合い、新たな意見を導く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9.対話の深掘りが進むように、積極的に関与し、問いを出し、対話の進行についての提案をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コミュニケーション	10.対話の相手 (クラスのメンバー) に対して、思いが通っても強迫して探求することのできる関係 (例:「どう思う?」)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【2】(必須) 今日の対話 (グループワーク) のなかで、自分の対話の態度、能力について気づいたこと。特に (1) の項目の自己評価がよくも悪くも変わった場合には、そう考えた理由を書く

【3】(授業内で指示があった場合必須) 授業の内容のふりかえり、他の人が話したこと、また、グループで話してみても、あなたが気づいたり、考えたこと

【4】(任意) 教員からの回答や対話が必要なこと